

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（8月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

スワンナプーム空港に着き、友人の車に乗せてもらい大学の寮へ向かいました。私が入ったクリサナ寮は、二人部屋のみで構成されていますが、私はそこで一人で住むことになりました。寮は整頓されており、日本人も予想より多く、他の東南アジアの大学の寮より比較的住みやすい寮だと思います。しかし、たまに非常ベルの誤作動が夜中や早朝にあったり、トカゲや虫が出たりすることがあったので、最初の三日間はストレスを感じながら過ごしていました。最初の入寮手続きや、設備の使い方などは、聞けば窓口の方が丁寧に説明してくださったのでとても助かりました。

大学のキャンパスは非常に広大で恐らく文京キャンパス 30 個は悠々入るくらいです。寮はキャンパス内の端に位置しているため、ISC(国際課のようなところ)や授業に行くには無料シャトルバスに乗る必要があります。ちなみに、制服や日用品は基本的にこのバスに乗り、キャンパス内の中心で調達できるうえに寮の近くに屋台やコンビニがあるため、慣れないうちは最悪キャンパス内に引きこもっていても生活はできます。

交換留学生全体のオリエンテーションを見た限り、アジアからの学生だけでなくヨーロッパからの学生も割合的に多い印象でした。日本人も比較的多い方です。授業開始日の放課後、経済学部の留学生のみのオリエンテーションもありました。この、学部内でのオリエンテーションは、行っている学部と行っていない学部があったようです。履修の説明がされただけでなく、タイ人学生とのバディや他の留学生との交流の場となったため交友関係を深めるにはとてもいい機会でした。

履修や授業のことについては、基本的にメールやフェイスブックでこまめにアナウンスがされ、経済学部の担当事務のような人がわかりやすくオフィスで説明してくれたため、スムーズに行うことができました。しかし、他学部の学生は、そこまで手厚く履修登録について説明されたわけではないため、トラブルがあった学生もいたみたいでした。授業は、タイ人の学生と一緒に受けるかたちなので、時々タイ語が混ざるのかと思ったのですが、どの授業もほとんど終始英語だったので大学のレベルの高さを感じました。しかし、授業はよくキャンセルになり、先生もよく遅れてくるので気楽です。

週末は、日本人の友達や、他国からの留学生、タイ人とご飯を食べに行ったりしていました。カセサート大学は、バンコクのはずれに位置しているため、バスと BTS(高架鉄道)を利用して都心部へ行ったり、大学周辺のローカルな店に現地生に連れて行ってもらったりしました。また、私は一年生の PBL でタイに行ったため、そこでできたアサンプション大学の友達とも時々遊びました。

また、私は福井大学でダンスサークルに入っていたため、こちらの大学でもダンスク

ラブに入ろうか迷い、最終的にはカンボジアからの留学生が、部員の何人かは英語が喋れるため大丈夫だと奨めてくれたので入ることにしました。部員は優しく、時々重要なことについては英語で通訳してくれたため、とても楽しい時間を過ごすことができました。まだ、活動が二回しかないため、これからの活動も積極的に参加していこうと思います。この活動を機に、タイ語の勉強も頑張りたいと思うようになりました。

また、個人的に思ったこととして英語力以前の問題として私たち日本人は、国際社会で生きる上で必要な教養が乏しいと感じました。日本人の友達が、同じ交換留学生の韓国人と会話をしていたら、慰安婦問題の話題になったそうです。また、彼女はフランス人と話をしたときも原発の是非について意見を求められたそうです。他の友達は、インドネシアのルームメイトと、日本からの独立記念日に、日本とインドネシアの関係性について話を聞く機会があったそうです。彼女たちは、これらの話題についての知識がなく、あまり話しができなくて恥ずかしい思いをしたそうです。もし、私もその場にいたら同じようにただ相手の言うことを聞くだけになってしまい、会話をするというレベルではなかったと思います。フランス人の友達から、親しい友達同士でも日常的に政治や社会問題について議論をすることは普通であると聞き、普段の日本人同士での会話のレベルの低さに私も恥ずかしくなりました。自国が歴史的にしてきたこと、政府の動向や政策について持論を持つどころか事実や現状すら知らないということに危機感を覚えたため、少しずつ歴史や社会問題について調べるようになりました。私たち学生は、興味関心の範囲を、身の回りのことだけや嗜好だけで絞るのではなく、まずこの国のことについて関心を持つべきであるなど他国の留学生と接して気付きました。



↑経済学部オリエンテーション（留学生とタイ人バディ）